

# 化学療法センター／腫瘍内科

## 1. 体制

化学療法センターは専従の医師（腫瘍内科）、看護師、薬剤師及び事務員が協働し、各診療科からオーダーされる外来化学療法を実施する部門である。

### 【施設概要】

- ① 診察室 2室
- ② 受付 腫瘍内科および化学療法センター受付
- ③ 患者待合、家族待合
- ④ 治療室 病床数 26床（リクライニングチェア 21床、ベッド 5床）
- ⑤ 薬剤部調製室 安全キャビネット 2台（2人用）

### 【医師】

西村 貴文（センター長・腫瘍内科部長）

資格：日本内科学会総合内科専門医、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医  
専門領域：がん化学療法一般

足立 靖樹（内科専攻医）

主な業務内容：

- ①各診療科と連携し、化学療法センター内に併設した診察室で化学療法に関する診察（オーダー・検査結果確認・投与可否判断・副作用対策など）を行う。また各診療科と共同して治療効果の判定を行い、治療方針の決定に関与する。
- ②化学療法に関する各診療科からのコンサルテーションに対応する。
- ③治療室内での緊急対応（アレルギー・ルートトラブルなどに対する対応）を行う。
- ④看護師・薬剤師と連携して化学療法レジメン作成を支援する。

### 【看護師】

スタッフ：

小西 元子（副センター長・看護部部長・がん化学療法看護認定看護師）、  
牧瀬亜里（主任・専従）、柏原知明（専従）、藤川理恵（専従）、築田知咲（専従）、中山亜矢子（専従）

主な業務内容：

- ① 新規外来導入患者を対象に、事前の情報確認・化学療法に関連する指導及び説明を行う（オリエンテーション）
- ② 外来化学療法の実施前に患者情報の確認を行う（病名・レジメン・血管確保の方法・CV ポートの有無および状態・アレルギーの有無およびリスク・日常活動度 ADL など）。リスクや ADL に応じて治療ベッドの配置を決定する。
- ③ 外来化学療法の実施。薬剤確認、血管確保、投与管理など
- ④ 副作用の確認と生活指導を行う。
- ⑤ 輸血・補液・中心静脈ポート抜針など化学療法に関連する処置を行う。
- ⑥ 腫瘍内科・薬剤部と連携して化学療法レジメンの作成を支援する。

#### 【薬剤師】

スタッフ：

石川 弘子（副センター長・薬剤部副部長兼務）

水田純平（がん薬物療法認定薬剤師・薬剤部係長兼務）、三宅麻文（薬剤部係長兼務）、

近藤篤（がん薬物療法認定薬剤師・薬剤部兼務）、高橋友梨（薬剤部主任兼務）、

辻屋朝美、上ノ山和弥、（薬剤部兼務）、

主な業務内容：

- ① 化学療法実施前日までにレジメン監査・調剤および疑義紹介を行う。
- ② 医師からの調製確定指示に基づき、抗がん剤の調製を行う。（入院および外来）
- ③ 新規レジメン或いは薬剤外来初回導入に対し、患者に薬剤説明および指導を行う。
- ④ 化学療法レジメンを作成し、電子カルテにプログラムする。

#### 【受付事務】

スタッフ：

金澤由布貴（ソラスト(株)・専従）、野村淑子（ソラスト(株)・専従）

主な業務内容：

- ① 外来化学療法患者および腫瘍内科外来受診患者の受付および案内を行う。
- ② 院内および院外からの電話対応を行う。
- ③ 各種文書の処理を行う。

#### 【医師事務補助 Special Medical Clark (SMC)】

スタッフ：

播本真須美（診療サービス科係長・腫瘍内科専任）

主な業務内容：

腫瘍内科外来の事務補佐を行う。

## 2. 診療実績

平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月の診療実績は以下の通りであった。

### ① 腫瘍内科外来

外来患者診察総数 6311 件

(入院中外来含む、静脈ポート抜針除く)

外来化学療法実施件数 2460 件

治療室対応 47 件

年次推移

年度	平成 25	平成 26	平成 27	平成 28	平成 29	平成 30
外来患者診察総数*	3042	6112	7393	6493	6347	6311
外来化学療法実施	1477	2269	2668	2365	2292	2460

\*入院中外来含む、静脈ポート抜針除く

### ② 外来化学療法実施件数 (全診療科)

診療科別内訳

	各科実施件数 (内腫瘍内科担当)
血液内科	970 (0)
呼吸器センター内科	1390 (1271)
呼吸器センター外科	214 (0)
消化器センター内科	924 (60)
消化器センター外科	1581 (687)
乳腺外科	987 (42)
産婦人科	455 (100)
腎泌尿器センター外科	192 (154)
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	176 (173)
脳神経外科	219 (12)
小児科	52 (0)
腫瘍内科	2292
全体	7123 (2292)

#### 年次推移

年度	平成 25	平成 26	平成 27	平成 28	平成 29
外来化学療法実施件数	5164	5868	6932	7114	7123

#### ③ 抗がん剤調製件数（化学療法加算）※ゾラ注、ベルクド皮下注、ミトレセト筋注など以外

全体	10383 件
外来	7121 件
入院	3262 件

#### ④ 外来薬剤説明実施件数 145 件

#### ⑤ オリエンテーション実施件数 380 件

#### ⑥ 化学療法レジメン作成数 44 件

血液内科	17 件
呼吸器	10 件
消化器	8 件
乳腺外科	1 件
婦人科	4 件
泌尿器科	0 件
耳鼻科	2 件
小児科	1 件
皮膚科	1 件

### 3. 本年度の特色

本年度の特色として、以下のような新規治療が行われるようになった。

#### ① 免疫チェックポイント阻害薬と化学療法の併用

非小細胞肺癌において、平成 30 年 12 月より免疫チェックポイント阻害薬であるペムブロリズマブと殺細胞性抗がん薬であるカルボプラチン+ペメトレキセドまたはカルボプラチン+アブラキサン併用療法が認可され、翌月より実施されるようになった。

#### ② マイクロサテライト不安定性を有する固形がんに対する免疫チェックポイント阻害薬治療

標準治療が困難なマイクロサテライト不安定性を有する固形癌に対し、平成 30 年 12

月より免疫チェックポイント阻害薬であるペムブロリズマブが使用可能となった。当院では病理部・遺伝子カウンセラーなど関係部署と連携して運用体制を構築し、平成 31 年 2 月よりスクリーニング検査を開始した。

③ 新規抗 CD20 抗体オビヌツズマブ

CD20 陽性の濾胞性リンパ腫の治療薬として新しく抗 CD20 抗体であるオビヌツズマブが承認され、CHOP 療法などと併用で使用されるようになった。

## 研究課題

- 1 がん化学療法における有害事象に関する臓器横断的研究（西村貴文）